

## 岡谷小学校のあり方検討委員会「統合・分散分科会」(要約)

第6回 岡谷小学校のあり方検討委員会 統合・分散分科会 平成25年11月29日(金)

### 【意見要約】

・岡谷でも統合した経緯はある。市役所の位置に昔、中央小という学校があった。それが今井小と一緒に、新しい場所に神明小ができた。中央小も今井小も、統合前の前年は神明小の今井部校、中央部校という形で呼ばれていた。そういう経緯がある。だが、その時中央小にいた子どもたちが全員神明小に行ったかという、そうではなく、間下区は神明小、新屋敷区は岡谷小、上浜区は田中小へ行くことになった。これが今井小と中央小の統合で、神明小が作られた。

・統合というのはある程度計画的に、学校を整理しなくてはいけなくなったということ。

・分散というと、ある程度近い学校を選択することになると思うが、受け入れる側がその人数を受け入れられるかどうかの課題はある。

・基本的には、受け入れる側の学校に、子どもたちを受け入れるだけの教室が不足すれば、当然、つくって迎え入れればよい。そのためには時間が必要。

・現地存続に関して良い悪いは判断できない。なぜかという、地質などに対する知識もないし、発言にも責任がもてない。仮に現地存続となって万が一のことがあったら誰が責任をとるかといえ、おそらく誰も責任を負えない。そういった意味で、現地存続は厳しいのかなと思う。再三言っているが、専門家の先生が駄目というなら駄目だと思う。

・統合分散では、いろいろな形があると思うが、実際問題ふたつの学校をひとつの学校にすると、必ずどこかの区は遠くなるので、ふたつの学校をひとつにするという選択肢はないと思う。分散であれば、新屋敷区は田中小、間下区は神明小、岡谷区は川岸小とか。移転案にもなってしまうが、移転候補地としては狭小だが、中央小と今井小のパターンみたいに田中小と合併して駅南に新築するとか。新たな場所に移転をしながら統合するというのがいいのではないかと。統合となった時点で、どこかに新設しないと無理ではないかと。やはり、どこかと統合してどこかに新設がいい。

・分散となると、区ごとの分散がいいのか。それとも拘る必要はないのか。

・拘る必要はないと思う。正直言って、どこへ行っても遠い。現在の8校の配置は、いい位置に配置されていてバランスが取れている。今バランスが取れているがゆえに、単純にひとつ(岡谷小)がなくなるとバランスが悪くなってしまう。バランスを保つとすれば、中央町とか駅南はいい場所だと思う。

・駅南は、隣に老人福祉施設ができる予定で、児童と高齢者が共存するというのは新しいモデルとしていい環境になるのではないかとと思う。

・(岡谷小は)学校本体は別としても、車が入れる道が1本。冬になって雪が降ると、先生たちは坂の下に車を停めて歩いて学校へ行っている。また、給食食材の業者も雪が降ると坂を登れず、先生たちや業者が歩いて運搬しているらしい。例えば雪が積もった日に万が

一のことがあった場合に、緊急車両が登って行かれないのは困る。普通車がすれ違うだけでも大変で、登校坂も山の斜面を削って道にただけで、子どもの安全を思うと現在の状況だと危険だという判断をしている。

その他の話を聞いてみると、あり方検討委員会の内容がなかなか見えてこない、自分の子どもは一体どこの学校へ行くことになるのか心配している。あと、自分の好きな学校に行かれるのかという心配をされている方がいるので、同時に考えなくてはいけない。

・現地存続も移転も、お金をかければできると思っている。けども、市の方でお金をかけたくないということであれば、統合分散しかないと思う。しかし、統合分散するにしてもそんなに簡単にできるのかなという心配をしている。というのは、一番お金がかからないということでも統合分散でしょうけど、例えば、今岡谷小が1クラス何人かわからないが、他の学校に移ったときに、その教育環境、1クラスの人数をしっかりと確保できるのか、あと、今の場所は危険だから安全を第一にということであれば、通学路の安全は本当に確保できるのかとか、統合分散をするにしてもそんな簡単にはいかないと思っている。そのあたりについて考えていきたい。

・確かに通学路というのは、大きな道路を渡るなどの危険もあるが、土砂法に指定されている部分を横切る、他の小学校でもそういうところがあるが、そういったところをいかに安全に通学させるかが重要なポイントになる。今現在でも安全の確保はしなくてはならないし、課題はある。

・駅南に、岡谷小と田中小を統合し移転させるという話があったが、田中小の学区の人たちの理解も必要。駅南でも中央町でも神明小に近いところはどう選択するかなど、様々な問題はあ

る。  
現地存続については、もし仮に現地に存続させるとなれば、校舎全部を取り壊しての工事になるので、これから7年の間、子どもたちは便宜的にどこかに分散して、また7年後戻るとすれば、もうすでに子どもたちの世界ができていて、今保護者が心配しているようなことと同じような心配を、またしなくてはいけない。

・岡谷小があれだけの危険な場所だということがわかっていて、そこに子どもを置くことはできない。子どもを危険な場所には置けない、これが大前提になってくる。

この大前提から考えたときに、1対1の完全な統合は敷地の面からも無理、そうすると中央小がかつて統合という形をとったような核となる学校があり、そこで歴史や伝統を引き継いでいく。大事に考えなくてはならないのは、どういう形になろうと、学校が移るにあたっては、子どもにかかる部分はしっかりと対応する。そして、希望を持てる学校づくりをしなくてはいけない。「分散させられた」ではなく、希望を持って新しい学校へ行けるように。

・中央小と中部中と一緒にこのあたり（現市役所）にあったのか。

・竜上高校も一緒にこの地にあった。富士見南中が富士見高原中と統合をしているが、これは、富士見高原中の場所へ南中がまるまる移ってきた。

・現地存続については、安全という面で考えたときには、やはり現地に存続することは厳しいと思う。ただ、お金をかければ地盤の補強等はできるかもしれないが、だからといって100%安全という断定はできない。そういう不安定な要素を抱えているとしたら、あえてそこに建て直すということは心配が残る。

それから、移転という問題があるが、移転先の面積等を考えるときに、岡谷小が入る面積がない、統合して移転という考えも、さらに規模が大きくなるので基本的に新しい敷地には収まらないのではないか。そういうことを考えると、統合分散というのが、ベストではないがベターな選択だと思う。それは、財源的にも安く済むかもしれないが、期間的なことを考えても、ある程度短期間で移れるという要素もある。それからもうひとつ。

やはり将来のことを考えたときに、この少子化の中で、子どもの数は激減していく。県の調査では、岡谷市における今年度の人口を「1.00」としたときに、2020年に「0.85」、2030年「0.67」、さらに行くと（2040年）「0.61」ということで、約6割になってしまうというデータがある。そうすると、現在270人だけれども、2020年には230人くらい、2030年、2040年には180人、そうすると単純計算すると、6学年で180人なので、1学年30人。現在35人規模学級なので、完全に単級（1学年1クラス）となる。そうすると、教員の定数というのはすべて学級数で算定される。1学級減ると担任1人が減るのは事実で、さらに専科の関係、今岡谷小には音楽と家庭科を持っている専科が1名入っているが、もしかするとその専科が「0」になってしまう可能性がある。それから臨任の教員がいるが、これも学級数で算定されるので、学校規模が小さくなれば現在3人くらい講師がいると思うが、これが「1」ないし「0」になる可能性もある。そう考えると、学校の規模が小さくなればなるほど、サービス面では低下する。そのように考えたときに、本当に岡谷小を現地に存続していくことが、子どもたちあるいは学校のためになるのか、と考えてもやはり「クエスチョンマーク」がつく。いづれは岡谷市も少子化という状況の中では、統廃合せざるを得ない状況が生まれるであろう。そういう面では、どこと統合するかは別にして、新しい統合の形をモデル的なプランとして新しい学校をつくる、ハード面ではなく、ソフト面で新しい学校をつくることが大事になってくると思う。だから伝統と言うものはもちろん大事にしなくてはいけないが、しかし伝統にあまりにも囚われすぎているのではなくて、これだけ激しい時代の変化の中にあるのだから、新しい時代にふさわしい、特色ある学校づくりや夢のある学校づくり、そのようなソフト面を大事にした学校をつくっていく時代ではないか。そういう意味では統合という形で新しい学校をつくるということ、これは大事なことではないか。それが将来の岡谷市のモデルになる、そんな学校をつくれればこれは、保護者も地域の住民も理解していただけるのではないか。どういう学校をつくるかということをこれから真剣に考えていかなければいけない。

・人口が、2000年から15%減。平成元年の岡谷市の人口60,000人超、現在の岡谷市の人口52,000人。人口が右下がりのときに学校をどうするかと考えると、行政とすると合理的

にすべきということになる。いろいろな意見があつて、お金をかけてでも新しく学校をつくった方がいいとか現地に残した方がいいとか、行政とすると学校だけではないので合理的＝経済的に、お金のかからない方法がないかとまず考える。8校を7校にする統廃合という形で考えることがベターだと思う。現地での学校存続はいろいろな規制、つまり土砂法や急傾斜地法による指定があつて、今すぐ危険という話ではないが、将来に渡って安全を確保するという話になると現地存続はいかがなものかという意見。考え方の方向とすると「統廃合」という考えで間違っていないと思う。3案を横並びにして、どれが一番市として、また住民にとってよいか検討すればよろしいと思う。

・人口 60,000 人から 50,000 人に減つたが、これから先また減っていくのかと思う。岡谷区は岡谷市の中心であり、駅もあつてマンションもある。まちの中心地区の最寄りに小学校がないというまちづくりが、人口減に拍車をかけるのではないか。中心市街地から歩いて通える学校がないというのは岡谷市のまちづくりといった観点から考えたときに、岡谷市の方針と合致するのか心配。

・岡谷市は、諏訪、茅野と比較しても、15 歳以下の割合が少ない。岡谷で子どもを育てたくなるようなまちづくりをしなくてはいけない。つまり、岡谷で教育をさせたいまちづくり。特色ある学校づくりをそれぞれの学校がしっかりと進めて、その特色を出していく中で、岡谷へ行って子育てをしたいなと思つてもらえることが、教育ができる人口増のための部分だと思う。

・今後のまちづくりをどう考えているのか。人口が減っていくのを仕方がないとするのか、それとも子育てをしやすいまちということで特色を出しながらやっていくか。何をやっても減っていくとは思ふが、ただ、何もやらないで減っていくのと、いろいろ努力をしながら減っていくのでは全然違うと思う。

・岡谷市に小学校が7つになるということなので、市内にバランスよく配置してみてもいいのではないかと思う。学区自体の見直しも視野に入れておく必要があるのでは。

・できるだけ早く方向性を出したいと考えている。できれば地区でまとまって同じ学校へ行くことが望ましいという話をさせていただいている。しかし、岡谷小へ通わすことが心配という保護者もいるとすれば、柔軟に対応しなければいけない。

## 第7回 岡谷小学校のあり方検討委員会 統合・分散分科会 平成25年12月20日(金)

### 【意見要約】

<児童が別の学校に別れた場合の想定シミュレーション資料について>

・各小学校の教室数内訳の表に記載されている教室全部が転用できるとは思えない。

・この問題は(教室に)転用できる、できないで解決してはいけない。転用すれば学校の教育活動がかなり制限されてしまう。緊急的な場合なら良いが、まず、第一に子どもの教育を考えるべき、方向性が決まった後、次に何をすべきかといった問題が出てくると思う。

- ・岡谷区全部が1つの学校へ行くというのは現実的ではないと感じた。
- ・資料を見ると、岡谷小の子どもたちが一番バラバラにならなくて済むのは小井川小だと思う。とすれば小井川小と岡谷小の統合ということになる。岡谷小の卒業生や地区の方からすれば、岡谷小の良さや伝統を大事にしたい思いがあり、小井川小の方が通学区の範囲内にも収まる。
- ・小井川小は敷地的には狭いと感じる。
- ・基本的には、この区はこの学校という形にしながら、幅広く学校を選択できるような部分を残していくほうが良いと思う。中央小学校がなくなったときには、今井小と中央小が一緒になって神明小になったが、中央小の上浜地区は田中小へ行き、新屋敷区は岡谷小、間下区が神明へ行った。中央小と今井小が対等合併で神明小になった。
- ・基本的には岡谷小学校を残していくのだと。岡谷小の伝統と新しく統合する学校の伝統を1つにし、新たな学校づくりをするといったことのほうが、受け入れられると感じる。
- ・松本市で数十年前に通学区の弾力化をしたが課題があった。地域の活動を見たときに、この地域に住んでいても他校へ行っているために活動に交われないなど、松本市は昔に戻す動きもあるようで、保護者の意向を大事にするとそういう問題も出てくる。
- ・岡谷市全体を考えたときに、1つの区がまとまって1つの学校へ行っている所もあるが、小井川区は、上の原小・神明小・小井川小と3つに分かれている。基本的には地域のつながりが大事なので、子どもたちを地域へ帰す、この日は学校行事やあらゆるものをなくして、地域での活動をするといったこともできるのではないかと思う。
- ・学校と地域との連携というのは今盛んに言われている。親の自由意志に任せるという方法もあるが、これから先を考えたときに、地域と学校が一体化していかなければいけない。弾力的な方法ではなく、地域とのつながりを大事にした方法の方が良いと思う。
- ・線引きは話合わなければいけないが、それ以外に子どもの安全・安心を守るために市として何ができるのか。例えばバスという話しもあるし、歩道を作る気があるのか、その準備ができていないのか。必要なら作っていかなければいけない。
- ・県道下諏訪辰野線は歩道がずっと整備されていて、西部中学校まで歩道を整備しようという計画を県で進めている。そういった整備がされるといい。
- ・たくさんの方々が子どもたちに声を掛け、見守ってくれている。
- ・以前、田中線のあるエリアを歩行者安全ゾーンとして県と市で連携して整備したときがあった。歩道を整備するのが難しいので、横断するときに待っているたまり場の整備等、具体的になれば検討して必要ならやれば良い。お金をかけなくてもできる事業だった。
- ・県でも教育委員会と建設課と警察で一緒の会合を持ち、各市町村から危険箇所を挙げてもらい、県として検討して補正で予算を組んで行った経過がある。要望のすべてはできないが、こういったことも考えられるのではないかと思う。
- ・ソフト対策として規制をかけてしまう方法もある。通学時間帯は進入禁止にするなど。お金をかけなくてもできると思う。

- ・何km以上歩かなければいけない場所からはバスを出すといった問題もある。
- ・岡谷市として他市のモデルになるようなことをしたいのであれば、岡谷小だけではなく、ぜひそういったところも全部バスを出してもらいたい。市のモデルを全国に示していく。
- ・逆の発想もあると思う。子どもは歩かせなければいけない。このぐらいの距離はそんなに遠距離ではないと感じる。今の時代、都会の子どもたちの方が歩いているかもしれない。そういった面でも全国の体力測定を見ると長野県の子どもが低迷している1つの要因としてあるかもしれない。伊那地区あたりが、学校統合して非常に遠距離になったのでバスを出さざるを得ない、安全面等を考えればいたしかたないと思うが、この範囲でバスに乗せることが本当にいいのかは議論が必要、バスに乗せれば必ず安全なのか。地域で、PTAで子どもを守ろうといった考え方もある。
- ・長い距離歩かせて子どもを強くするといった考え方もわかるが、冬は無理だと思う。
- ・実際に通う児童が学校を選べるとしたら、何が優先順位の1番かと言えば距離だと思う。間下区と新屋敷区は、岡谷小より遠くなるけれど1.5km以内に入る。ただ、岡谷区は神明小、川岸小に行くとはほとんどの人が2kmオーバー、田中、小井川にしても半分の人が2kmオーバーになる。岡谷区のことを1番に考えないといけないのかなと思う。
- ・岡谷小は山に登るので、明らかに自分の家よりも交通量が少ない所に行くので、交通面では恵まれていると思う。他の地域は家の近くでもそうでなくても交通量は変わらないと思うので、岡谷小に行っていた人から見ると、交通面と距離は今より条件が悪くなると思う。中学の絡みもあるので、本当は川岸小に行ったほうが良いと思うが、距離が遠くなる。

#### 第8回 岡谷小学校のあり方検討委員会 統合・分散分科会 平成26年1月31日(金)

##### 【意見要約】

##### <通学路について>

- ・通学する上で心配になるのが、危険個所の検証。例えば大川沿いや上浜の踏切。
- ・県道については、ほぼ歩道が整備されているので安全性は高いと思う。また、神明小に行く場合、土砂災害防止法の指定された区域を通学しなくてはならないことに心配がある。
- ・この案で行くと、間下区は全員神明小から北部中、新屋敷区は全員田中小から南部中。岡谷区はどうなるか。神明小に行った児童は北部中、田中小に行った児童は南部中といった感じか。それとも現行の西部中に行くのか。
- ・分散という選択になった場合、間下区と新屋敷区からはそれほど異論は出ないだろう。現状だと、岡谷小を残して欲しいという意見が大半。それができなくて分散となれば、間下区と新屋敷区については、小学校までの距離が遠くなるというデメリットはあるが、小学校でできた仲間とそのまま中学校へ行かれるといったメリットもある。けれども、岡谷区はデメリットしかない。岡谷区とすればどうしても岡谷小存続ということになる。中学もわかる、小学校も遠くなる。メリットはない。

・岡谷区の方たちは納得できるだろうか。ある程度皆さんの合意、納得が必要だとすれば、もう少し岡谷区の方たちに配慮が必要ではないかと思う。

・もしやるなら、岡谷区の北側は神明小となっているが、このエリアは神明小から北部中、南側は田中小から南部中、西側のエリアは川岸小から西部中。これであれば最寄りの小学校へ通学できるし、中学校区ともリンクするのでいい。岡谷区にとってもいいのではないかと。あとは区がわかれてしまうことの是非。

・市には、どうしてこのような事態になってしまったのかを考えてもらいたい。いずれにしても遠い。子どもの安全安心を第一に考えて存続できないというのであれば、これだけ長い距離を歩かなければいけないことに対する安全安心はどうなるのか。言っていることが矛盾しているのではないかと。また、市のお金をかけたくないという姿勢や適当な話の進め方に不信感を抱いている保護者が多いのではないかと。

・いずれにしても、今現在を見れば「なぜ？」ということになるが、10年20年30年先を見れば、確実に子どもの数は減る。県のデータでは、岡谷市は30年後には今の6割になってしまう。岡谷小を仮にここへ存続させたとしても20年も経てば、今、1学年2クラスの学校が単級になってしまう。それは岡谷小に限らず全ての学校に言えること。小さな学校がいくつかできてしまうとすれば、統合というのは避けては通れないと思う。そうやって考えたときに、「なぜ今岡谷小が？」と思われるかもしれないが、ゆくゆくはどの学校も統合という話は出てくる。そう考えたときに、やはり岡谷小とどこかの学校と統合というのが、ある意味岡谷市の学校統合のモデルケースになるし、モデルケースにしなければいけない。だとすれば、岡谷小の伝統を大事にしながら、統合するとすれば対等な形での統合を考えていく必要がある。

・距離の問題が出ているが、2kmという距離を遠いと思うか遠くないと思うか、通学距離という面では岡谷市はかなり恵まれている。こんな狭い範囲にたくさん学校がある。ところが他の市町村を見てみてもらいたい。もっと広い範囲の中でこんなに学校はない。2kmという距離は近いと言える。

・衰退のモデルをつくっても仕方がないのではないかと。

・将来を見通さないと、無駄になってしまう。

・10年後か20年後かわからないが、またこのような話になる。次のときのモデルにする必要がある。そうでないとまた次の10年後にこの議論をすることになり、そのまた10年後にまたやることになる。是非今回の件をいいモデルケースにしてもらいたい。これから来るであろう人口減少と児童数の減少を見据えたときに、小学校の統廃合がある程度予想される中で、次回、そのまた次回におおごとにならないよう、スムーズに進めていけるよう、今回しっかり議論することが大切だと思う。岡谷小をどうするのかという議論の中で、皆さんに納得を得られる方法があれば、今後の学校統合のモデルになるし、納得してもらえる材料になると思う。また、経験値として残るのではないかと。

・岡谷区の中で神明小に区分しているのは、距離の問題か。

- ・田中小あるいは神明小は距離で区分しているということか。
- ・距離が微妙な部分は、岡谷区は岡谷区で同じ学区で示した方がいいと思う。そして、ある部分についてはそれぞれの保護者の意思を尊重し、それを保障するようにすればいいのではないか。 岡谷区が学区であればまたイメージは違うのではないか。
- ・イメージは違うが、その方が、クレームが出るのではないか。
- ・間下区は、神明小と岡谷小とわかれている。区の中で小学校区がわかれている区は現在でもある。
- ・わかれてもいいと思うが、実際問題できるか心配。
- ・基本的には学区の弾力化。これだけ学校が密集しているのだから、わけようがない。100人いて100人に納得してもらうことは難しい。
- ・自由に選択していいのかというと、そうでもないと思う。
- ・市は選択肢を考えなければいけないし、そのメリットデメリットもあわせて考える必要がある。 松本市で学区の弾力化を図ったが、デメリットが大きく考え直している事例もある。それぞれ保護者の自由に任せたら色々な問題が出てくるので、全てに納得はできないかもしれないが、あるところで線を引くということは必要になる。
- ・岡谷区は同じ学区がいいと考えるか。
- ・区に対する印象はいいのではないか。区ごとに学区をわけるけれども、微妙な部分については保護者の選択の余地を残す。当然、学区の検討にあたっては、中学校区も視野に入れなければいけない。中学に行ったら別々になってしまうのではいけない。
- ・やはり、小学校と中学校はリンクさせてもらいたい。しかし、現状岡谷区の子どもたちは西部中へ通っている。
- ・現状西部中とすると、西部中の生徒が減って南部中が増えるということか。
- ・南部中は少なくて西部中は多いので、岡谷区が全員南部中に行ったら、人数のバランスはいい。
- ・間下区は、5町内6町内7町内は地続きだが、5町内と7町内は岡谷小、6町内は神明小へ通っている状況がある。
- ・密集しているというが、1枚の紙を見れば密集しているように見えるが、実際問題、全然密集していない。 本来この岡谷小学校区内に学校をつくることは市の責任としてやってもらいたい。それを失くすということを簡単に考えてもらいたくない。2kmなんか通えるだろうとおっしゃいますけども・・・。
- ・やはり歩いて通うことになるのか。
- ・最寄りが遠すぎる。それでも徒歩通学になるのか。
- ・その子たちも含めて全学区バスを出したらいいと思う。 岡谷小を失くそうとしているのであれば、岡谷市として当然でしょう。
- ・要望があるから出すのではなく、市として積極的に出すということを言っていかないと、全然モデルにならないと思う。



・岡谷区、新屋敷区全部を田中小とすると、2 kmを超える子はそれなりにいる。そうすると、1、2年生にバスを出すことになれば納得は得られるかもしれない。バスを出さないなら区をわけるような形にしないとなかなか対応は難しい。

・市の責任において、学区内に学校をつくるべきであると思っている。でもそれができないのであれば、市は何をしてくれるのかなと思う。

・自宅前から乗ることは難しいけれども、停留所ではなく、1か所集合場所を決めてそこから学校付近まで送る。そうすれば実際歩く距離は岡谷小まで行くよりも短い。

・岡谷小へ行くよりも歩く距離が短くなる可能性はある。

・岡谷小までの距離は短いが坂道を登っていくので負荷は大きい。それから、通学上の危険度は交通面では少ない。交通量は少ないし、通学距離のうち3分の1から4分の1は学校の敷地内を歩いている。

・考え方は色々あるが、基本的には歩いて通うことを原則にして、場所や状況によってはバス通学も認める方法がいいと思う。やはり家庭が判断することであって、市がバスで通いなさいと決めるのではなくて、原則は2 kmくらいは歩きましょう。山道も歩きましょうということは言ってもいいと思う。しかし、安全面を考えたときに、保護者としても市教委としても不安に感じるところがあるならば、学校と相談のうえで決めるという方法もあると思う。

・交通的には危険度もあるけれど、昨今は子どもが行方不明になるなど問題が沢山ある。そのような不安があつてバスに乗った方が安全というなら、通学バスもひとつの手法。

・平成21年8月に諏訪市西山で118ミリの降雨があり、いくつかの溪流が氾濫して通学路が寸断された。こうした雨はどこでも起こりうるので、山沿いを歩くというのは避けられるのであれば避けた方がいい気がする。例えば、岡谷区の子どもは神明小に行くよりは田中小へ行く方が、そういった面での危険は回避できると思う。

今、国は、人口が減少傾向にあるので、公共施設は統廃合しましょう、それに要する経費を手当てしますと言っている。例えば新しい学校をつくる際に国の補助金をもらうとき、統廃合の検討はできていますか？と聞かれる。施設の統廃合は全国的な流れになっている。

・現在の市役所庁舎建設当時、人口減少が見込めただろうけど、旧庁舎から今の大きな庁舎を建てている。あの小さな庁舎から。自分たちの建物だけ？と思ってしまう。

・平成元年頃は人口6万人を超えていた。

・現状で、神明小や田中小に統合したときに教室は十分足りるか。

・増築は平成28年度に間に合うのか。

・今の余裕教室の使い方は、昔は普通教室として使っていたけれども、子どもの数が減って空いた教室をどうやって使おうかということで今に至っているはず。

・例えば少人数学習を徹底するなら、ある程度の余裕教室は必要。つまり、ハード的な整備だけでなく、どういう学校をつくるか、どのような教育をするかなどソフト面の検討が必要。例えば、少人数学習を低学年から徹底するということであれば、当然教室を増やさ

なくてはならない。そう考えるとスケジュール的に忙しい。

ハード面とソフト面を同時に考えなくてはならない。となれば、統合する教職員同士が、どのようなイメージを描いて学校づくりをするのか、そこに保護者や地域住民も加わる、子どもも加わる。そこで学校づくりをイメージするという作業になり、ワークショップのような方式をとってやっていくことになると思う。それは同時進行でやっていかないと簡単にできるものではない。その上で校舎づくり、教室づくりをどうしたらいいかということが決まってくる。そう考えると平成28年度を目途にやるとすれば忙しい。だから早く結論を出さないと間に合わない。

・国は小学1年生だけが35人で、それ以上は40人。長野県は中学3年まで拡大し、先行している。昔は40人基準だったものが35人基準になり、教室数が不足したが市町村は対応してきた。少人数学習をやるかやらないかで、教室数も変わってくる。

・統合するからひとつの教室に押し込めることはないか。少人数の方がいいのか。

・目が行き届くから（少人数の方が）いい。

・少ないと集団で練り上げていく学習ができなくなる。マンツーマンでの指導しかできなくなってしまう。どの位の人数がいいのかは教師の力量にもよるのではないか。

・（小井川小は）敷地も狭そうだし、拡張の余裕はないと感じる。

・新屋敷区は、田中小となってもクレームはないと思う。距離は大差ないし、中学校区を見据えているから。やはり岡谷区の対応。

・新しい環境になってから入学してくる子たちは、それほど違和感はないと思うが、在学中に新しい環境になる子どもたちへのケア、心境はどのようなものか。

・受け入れる側とすれば、「よそ者が来た」とか、そのような心配はないか。

・いきなり一緒にするのはダメ。1年くらい前から合同の行事などをしっかり位置づけてやっていくとか、そのようなことが必要になる。合同の授業でもいい。

・（先生の加配について）市の予算であればいいが、県の予算では無理。市町村合併に伴う統廃合であれば、相当の加配がある。激変緩和措置。あくまでも市町村合併に伴うもの。そういったことでは、教員を手厚く配置してケアすることもひとつの手法。

## 第9回 岡谷小学校のあり方検討委員会 統合・分散分科会 平成26年2月28日（金）

### 【意見要約】

<統合・分散による「環境の変化による児童の不安に対するケア」について>

・残された月日はあまりないわけで、最低でも1年くらいは事前に子ども同士、統合する学校の子どものとの交流、教職員同士の交流的なものは、より多く設定していかないといけないと思う。ひとつは行事的なこと、合同の行事をある種定期的に設定していくこと、教職員の関係、カリキュラム、どういう学校をめざすのかという見地から教職員合同チームをつくって検討をしていくことも必要、教職員同士の交流の場も必要になると思う。

できるだけ子どもたちの心を開放しながら、不安を取り除くというようなことを計画していく必要があると思う。統合後については、教員の加配というようなものが望めればいい。今回の岡谷市の場合には市町村合併が伴わないので、国の支援は期待できない。とすれば、県教委に対して加配の要求をする、もうひとつは岡谷市として独自に教員を配置するということも必要になってくると思う。より多くの大人たちで子どものケアを大事にしていく。そういったことも考える必要がある。

・新しい学校の学級の数はず決まり、それによって教員の数は決まる。

・(岡谷小の先生は) 当然、継続して入っていく必要はある。全員ではないが。まったく新しい教員になれば、子どもたちは不安になる。岡谷小の教員が例えば統合先の学校へ異動をする。そこで何人かは残る。

・(校長先生は) 平成28年ということが決まれば、それに沿った人事が県で行われる。

・校長のポスト、一般職員の数も減る。

・統合校の規模によって、統合先の教員もある程度残すし、岡谷小の教員もある程度残す。そういった人事になる。基本的に長野県の場合には、一般教員の人事は校長会がやっているの、諏訪校長会が諏訪郡内の人事を決める。当然統合ということになれば、それを大事に考えながら教員配置をすることになると思う。

・教員の配置という点でのケアは、ある程度可能ということ。

・(加配は) 市町村合併が伴わないので国の加配は無理だろうけど、県教委に対して何らかの形で加配を要求していくということはあると思う。

・教員の定数は学級数によって決まる。担任は学級数とイコール。専科教員の数も学級によって決まる。配置人数の境目のところで微妙に増えたり減ったりするので、校長が一番気を遣うのがその学級数が確保できるかどうか、いつでも気にしている。

・(学級の生徒の数は) 35人基準で学級数が決まる。国は、小1は40人基準、小2からが35人基準だが、長野県は全学年35人基準。

・36人とすれば、2クラスになる。35人だと1クラス。ひとり増えるかによって学級が変わってしまい、それにより教員の数も決まる。そこにプラスアルファで加配の教員をどれくらい配置できるか。

・松本市は合併しているが、市町村合併に伴っているので加配されていると思う。市町村合併が伴って、学校統合した場合に、激変緩和措置がとられる。市町村合併しても、それぞれに地域がたくさんあり、そこを担当する教員が必要なので、慣れるまでは是非何人かは欲しいと要望があって、その要望に応える形になる。

・例えば、(学校統合による余剰人員を) 加配すると文科省は言うが、教員の給与は、1/3は国、残り2/3は県が出さないといけないのでなかなか難しい。

・(年数は、) 激変緩和なので、小学校は5年間、中学校は2年間で定数まで減らす。

・途中で移った子が卒業するまでというイメージ。

・学校統合した場合、よそ者扱的なものがないように、やはり事前の交流等が必要。

- ・例えば、運動会や音楽会を合同でやることは考えられる。規模が大きくなれば運動会は無理でも、学年行事とかを同じ学年同士でやるようなことは考えられる。
- ・対抗するというのは、子どもの世界では十分考えられることだと思う。うまく学級経営をしていかないと、大人が思いもよらないような事態が起きたり、いじめに発展したりとか考えられるので、簡単に大丈夫だということは言えないのではないか。
- ・中学校に上がるときには、2つ以上の小学校から1つの中学校に入ることが多いが、そのときにはやはり最初は抵抗があるようだ。
- ・中学に上がるときは、全員が新しい環境になるから大丈夫ではないか。しかし、新しいところに入って行って、しかも入っていく方が少数だとすると心配。
- ・学級経営というか、担任がどの程度配慮できるか、あるいは学年対応や学校対応としてどう配慮していくのかが大事。
- ・先生に任せきりというのはどうかと思う。もちろん地域、教育委員会、いろんなどころで助け合うことが大事だと思う。
- ・統合によって児童数が増えると、加配という面では有利になる。学習習慣形成支援というのがあり、小1、小2の段階では特に、学習習慣を形成するための加配というのがある。やはり児童数によって決まってしまうので大きな学校の方が加配の数が多く、恵まれているが小さい学校は、加配は0。本当に教職員は大変。そういう面では、大きい学校は恵まれている。そういう面から、統合についてはメリットがある。
- ・例えば36人の子どもがいたとして、計算式でいけば2学級になるけど、特に集団としても問題がなく、1人担任でも学級経営ができると判断できる場合、1学級編成でもいい。その場合にも県からは2学級分として2人の教員が配置されるので、担任を持たない1人をティーム・ティーチングという形で使うことも考えられる。そのあたりは弾力化できるようになっている。
- ・本来36人いれば2人配置されるので加配ではないが、ひとは担任をもち、ひとはティーム・ティーチングみたいな形にまわすことは可能ということ。
- ・学校の指導の仕方に戦略的に幅がでるというか。
- ・どういう教育方法がいいかということなので、学校が決めればいいこと、やはり子どもたちの実態で決めればいい。ある程度細かく児童数ははじき出されるので、それによって何学級になるかも見込め、教室数とも関わってくる。さらに、少人数学級となれば、2学級を3つにわけて学習することになるので、教室がもうひとつ必要になる。クラスの教室だけでなく、少人数のための教室も必要になるので、どういう学校運営、教育をするかといったソフト面を考えないと、ハード面の整備が確定できない。
- ・平成28年スタートを考えれば、あまり期間がない。できるだけ早く、ソフト面でどういう学校づくりをするのか、教職員で考えなければいけない。あるいは、教職員だけでなく、地域の皆さん、児童も含めてワークショップ的な方式で、どういう学校をつくるのか、学校づくりのための会を定期的に設けていかなければいけないと思う。

- ・「みんなで新しい学校をつくろうよ」という意識が子どもたちの中に広がってくれば、さきほどの心配も少しは解消できると思う。
- ・事前の合同の行事の中で、すでに田中小対岡谷小というのが生まれえないか。
- ・そういう風にならないように考えなければいけない。
- ・音楽会で交流になるのか。岡谷小は岡谷小としての発表だし、田中小は田中小としての発表だし、練習にしても混ぜて練習はできないだろうし・・・。
- ・同じ学校の中でもクラス単位で対抗心がある。音楽会や運動会も一緒にしているが。
- ・分けてそれぞれの学校に入れるというのは、子どもたちのストレスは大きいと思う。大人の都合でこうなってしまうというのもあるし、仲のいい友達とも別れなくてはいけない。こうしたことで学校へ行きたくないとか、ましてやよそ者扱いなどされたら、それこそ学校へ行くのが嫌になってしまわないか心配。
- ・長い期間といっても平成28年からスタートする前提で、単発で交流行事を行っても、なかなか交流が深まっていくとは思えない。勝負は学校が一緒になったときから、スタートからどういう学級経営をしていけるかということだと思う。あまり交流には期待しない方がいいのかなと思う。
- ・子どもたちの中でも、「仲良くしよう」という子どももいるはず。
- ・具体的な策について、これから考えなければいけないし、やらなければいけない。
- ・岡谷小の子たちがどう考えているかってを知りたいと思う。本当に岡谷小のことが大事で、今回なくなってしまうということを子どもたちは今どう考えているのか。本当に悲しい気持ちでいる子どもたちは、分散させられて新しい学校へ入っていったときに、最初落ち込んだ状態でスタートということだと思うので、かわいそうだなと思う。逆に岡谷小なんてどうでもいいと思っている子ども達は心配ないと思うが・・・。
- ・今の3年生は特に心配。5年生まで今の仲間と岡谷小学校へ通い、残り1年で仲間と別れ、違う学校に行かなくてはいけない。6年生になればいろんな行事もあるし。
- ・先生たちもクラス替えの際のケアは経験があっても、過去に統合とか合併したとかいう経験がない。
- ・A小学校とB小学校の先生方が、双方の学校へ行って授業の様子を見たりすることも必要、中には気になる子ども、配慮しなければいけない子どももいる。そういった子どもを抽出して、教員同士の交流の中でどのような状況なのかということ把握することも必要、情報交換や情報共有は当然必要になる。小学校から中学校へあがる際の学級編成は、小学校6年生の担任の先生が編成案を中学へ持って行って、最終的に中学で学級を編成するけども、やはりこの子とこの子と一緒にした方がいい、離れた方がいいとかは当然中学へ伝わっていく。同じことを小学校同士でやらなければいけないと思う。学級編成においても配慮が必要。そういう意味でも、同じ学年の教職員の交流は密にしていかなければいけないと思う。
- ・前向きに統合分散を考えていくのであれば、3校にわかれるよりは2校がいいと思う。

・間下が神明、岡谷と新屋敷が田中小という案が、ベストではないがベターかなと思う。距離や人数、現有施設を考えてもその方がよさそう。

・ケアの話、地域で何かできることがないか考えると、田中小学校のあたりと、岡谷区、新屋敷区とでは、今までなかなか地域の交流がなかったと思う。そういった観点で何かいい方法を考えられればと思う。間下の場合、区でまとまって神明小ということが考えられるし、区の行事にも岡谷小と神明小の子どもたちが集まってくるし、そういった面では交流が図られている。それでもさらに地域の交流は進めていかななくてはいけないと思う。

・今、本当にいろいろなお子さんがいらっしゃるので、正直ケアし切れないと思う。子どもたちが岡谷小のことをどう考えているかによって、分散に対する子どもたちの気持ちも変わってくると思う。本当であれば自分の母校を大事にしてもらいたいというのは気持ちとしてあるが、分散に決まるのであれば、岡谷小なんかどうでもいいと思っている子達の方が救われるのかなと思う。住んでいる場所によって仲のいい子とも別れてしまう。それもストレスになる。

・ある程度自分の好きなところに行ける選択の自由度には賛成だけど、他の学校区でもそういう声は出てくると思う。

・今だと、神明が440人 田中が454人になる ある程度見通しがたってそれに対して準備ができるが、見通しがかわってくると思うが。

・岡谷区の川岸寄りの方々は、少数ではあるかもしれないが川岸小に行きたいという人もいると思う。そういった保護者の声をよく聞いてもらいたいと思う。

・月見ヶ丘、夕日山あたりはどこからも遠い。強いて言えば神明という声がある。

・保護者の意見を聞く中で、必ず分散になる今の年中から3年生までの保護者と、分散はなく最初から岡谷小以外の別の学校になる年少さん以下の親御さんでは意見は違うか。

・保護者として、ゲリラ豪雨や地震も確かに心配だけれども、それ以上に不審者だとか交通事故が心配。特に女の子をお持ちの親御さんであれば当然心配になると思う。高学年になれば帰りが遅くなるし、1時間くらいかけて通うとなると暗くなる。そういった状況で歩かせるというのはすごく心配。

・(通学について) むしろ、高学年の女の子の方が心配。

・いろいろな所で不審者が出ている中で、ちょっと歩かせたくないと思う。

・地域の見守り支援といった取り組みをしっかりとやっていただければいいと思う。

・交通の安全はある程度、通学路の設定で確保できるかもしれないが、不審者は規制ができないので難しい。

・想定外のことはいくらでも起こりうる。親と子どもの心配事は違う。親は安全が心配。子どもは友達と別れることが嫌。保護者の心配に対するケアと子どもの不安に対するケア、2本立てで考える必要があるのではないか。

・防災メールは、不審者が出たあとの情報、被害を拡大させないための策。通学距離が延びれば、暗くなるもし、交通事故、不審者といった可能性は高くなるのではないか。

<全体会へ提出する資料について>

・一番いけないのは、「〇〇小学校との対等な統合」要は「分散じゃなく、統合だと」言いたいだけではないか。現実やることは分散。

・他の学校へ通わせるということは、すでに対等ではない。

・岡谷小をなくして、田中小と神明小へ行くのであれば、現実的には分散。

・せめて対等は削ってもらいたい。(対等は) 大事だけれども、今回の件については対等ではない。

・統合という気持ちはわかるが、我々からすればやっていることは分散。分散だけれども、岡谷小の伝統を引き継いでいたり、ここに記載のある項目はクリアするように努力していく、という出し方だと思う。

・その方が理解されると思う。

・対等に統合するなら、どこかに新しい学校を建てるべき。また、実際は今の田中小学校へ入っていくことになるから、先ほどの対抗的な心情が生まれるのではないか。

・確かに田中小へ入っていくんだけど、やはり新しい学校をつくるんだという意識でやらないと、なんとなくいつのまにか岡谷小がなくなってしまう感じになる。やはり岡谷小の伝統というものはやはり大事にしていけないし、それがいつのまにか分散で消えてしまうような、そういうことで本当にいいのかと思う。

田中小へ行くんだけど、そこで新しい魅力ある学校をつくるんだよということを強調してもらいたい。じゃないとなんとなく岡谷小や保護者や同窓生や地域の方、寂しいじゃないか。なくなるという事実は。

・寂しいからこれだけ反対が多い。分散したら終わり。現地が無理なら最悪移転。分散だけは避けたいと思っている。

前向きに分散を考えている。こういうケアが必要じゃないかとか考えている。どうやったら統合分散がうまくいくのか真剣に考えてみたい。分散の確率が一番高いと思っているから。気持ちは分散ではない。

・やはり岡谷小のよさとか伝統、そういうものはやはり大事にしたいんだと、そういう意味での新しい学校づくりが必要。

・神明小や田中小に入っていくんだけど、やはり一緒になるんだよね。で、そのところで新しい学校をつくりましょうという、そういうイメージ。

・新しい学校として、いちからスタートというのが、両校の児童にとって一番いいが、そのためには違うところへ新しい学校を建てるべき。けれど、現実問題田中小へ行くことになる。

・神明小も対象にしているということでもいいか。岡谷小学校の伝統を継承する新しい学校をつくるとか。

・分散だけれども、統合にするから許してよというように聞こえる。現実には分散することになる。もちろん新しい学校をつくっていくべきだけれども、現実的には分散する。しかし、

それをどうしたら統合という形にしていけるのか、いろいろ取組みをしていかななくてはならない。ここで統合と打ち出すのは、保護者たちに分散ではなかったよ、統合だったよ。と言いたいだけのように思える。

・統合となれば名前も変えるし、新しい校舎も建てるというイメージ。

・あとは、方法論。検討事項は書いてあるが、実際にそれをどうしていくのか。事前の学校間交流と書いてあるが、具体的に何をするのか。運動会や音楽会という意見が出たが、それで交流が深められるのか。もっと具体的な方法を考えなければいけないし。交流行事の実施と書いてあるが、交流行事とは何か。

・来年1年間をかけていくなら、今から練っていかななくてはいけない。

・両校による教職員のワーキンググループを立ち上げて、中身について検討を進めるとか。

・どうせやるなら、新しい学校、魅力ある学校をつくればと思うが。新しい建物をつくるという意味ではなくて。

・それをどうしていくのかを考えていかななくてはいけない。例えば保護者への説明としては、「すみません分散です。だけれども田中小と岡谷小を一緒にして新しい学校をつくっていく気持ちで取り組んでいきたいです。」という説明ならわかる。

・そう受け止められてしまうとすれば、本意ではない。